



郷小だより

浜之郷小学校

6月号③



Dear Gosyo kids !

2021. 6. 11

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

『安全を守る・健康を守る・ひとを守る・自分を守る』

校長 高橋 勸

今日のお話は、大切なものを「守る」ために必要なこと。おうちの方と確かめてください。

雨の日の登下校

6月になり、カサが必要な日が増えていきますね。リュックをせおって荷物をもって、水とうをさげながらカサをさす、ということにも、これからちょっとずつ、なれていくことになっていきますね。

そんな「あなた」のすがたをみて「車で学校まで送ってあげる」というおうちの方もいるかも。でも、浜之郷小学校では、車での送り迎え（とくにみなさんが一番使っている正門前）はしないことになっています。

また、カサをさして登下校している小学生は、歩道からあふれ出そうになったり、歩道をふさいでしまったりしていることがあるようです。ほかにもカサやレインコートはまわりを見えにくくしたり、音を聞こえにくくしたりしますから、雨ふりの日は注意が必要です。とくに、まだ体の小さなみなさんは、雨具をしょうずに使うことになれながら、田畑をうるおす雨とすごしていきたいですね。

熱中症

うるおされたいのは田畑だけではありません。わたしたちの体もこれからの季節に水分をもと

めています。水分がたりなくて、熱が体の中にとまってしまふことで、ときには死んでしまふこともあるのが熱中症。これから4か月くらいは注意が必要です。そのために、あなたにこそがけてほしいことを5つあげます。

- ① きそくたさい生活（夜はしっかりねる・朝きまった時間に起きる。ごはんをきちんと食べる など）をして、あつさにまけない体にしておこう。
- ② こまめに水分をとろう。（うんどうやあそびの前や後、おうちや学校から外にでる前にはとくにたいせつ）
- ③ たいようのひざしをさける（ぼうしやひがさでもお日さまはさけられます。あついに外にでるときはとくに。）
- ④ 外では、人とのきよりが十分はなれているときはマスクを外してもかまいません（体育で運動するときもそうですね。そのときは、友だちとお話はしません）。
- ⑤ きゅうに体がだるくなったり頭がいたくなったりフラフラしたり、おなかやむねがむかむかしたら、すぐまわりの人に伝えて、大人に気づいてもらえるようにします。

【保護者の皆様へ】

暑い一週間でした。これからの季節、学校生活の中で「新型コロナウイルス感染拡大防止」と「熱中症予防」をバランスよく進めていくには、それなりの工夫が必要です。

先日、茅ヶ崎市教育委員会より、「新型コロナウイルス感染症に係る体育の授業におけるマスクの取り扱いについて」として、次の留意事項が示されました。

***体育の授業におけるマスクの着用は必要ない。**（熱中症も命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先できるよう、授業の実施方法を工夫する）

- 感染リスクを避けるため、地域の感染状況を踏まえ、児童の間隔を十分に確保するなど、十分な対策を講じた上で実施可能な活動を行う。
- 児童がマスクの着用を希望する場合は、学校の対応方針・考え方について、**保護者と確認した上で**着用を認め、児童については、**呼吸が激しくなるような運動を控える**、また、呼吸が苦しい様子が見られる場合は、直ちにマスクを外し、他の児童との距離を確保し、休憩するよう指導する。
- **マスクの着用を希望する児童**については、スポーツの「**する**」活動に制限を与えたり、「**する**」以外の、「**みる**」、「**支える**」、「**知る**」等の**多様な関わり方で学べるよう指導**する。

以上のことを、「**熱中症リスク>コロナ感染リスク**」と受け止め、本校では次のとおり対応します。

① 熱中症のリスクが特に高まっている場合は、**激しい運動を伴う活動（体育実技、外遊び等）は行わない。**

*具体的には、「暑さ指数（WBGT）」が、

「**28～31℃・危険（運動は原則中止）**」もしくは「**31℃以上・嚴重警戒（激しい運動は中止）**」

となった場合です。

→校内モール下及び体育館に「**いまは そとで あそべません**」の掲示で児童に知らせて、校舎内で静かに過ごすよう指示します。

② 「暑さ指数（WBGT）のレベルに関らず、**当面の間、体育の授業で「する」活動をする場合は、マスクは着用しない。**また、**屋外での活動（外遊び等）**場面では、**体調や状況によって子どもが個々の判断でマスクを外すことを制限しない。**

*周囲の人との距離への意識や丁寧な手洗い、他者の思いへの配慮等、コロナ禍中でお互いがよりよく過ごすための生活習慣が、これまでに学校・家庭双方ではぐくまれていることが前提です。

→自分とは立場の異なる人とのコミュニケーションや、集団の中での好ましい自律的な行動は、学校・家庭両面での日常生活の中ではぐくまれます。ご家庭でも折に触れて話題にさせていただけるようお願いいたします。